

泌尿器科の現状と将来

井上圭太

キーワード：泌尿器科；人工透析；前立腺レーザー核出術（HoLEP）

（雲南市立病院医学雑誌 2019; 16(1): 36-37）

診療の変遷

泌尿器科は1989年度より鳥取大学泌尿器科学教室からの派遣医による非常勤体制で開設された。その後、1991年度から常勤医として三原聡医師が赴任され、泌尿器科診療と透析室の担当となった。また、同時期に当院は社団法人日本泌尿器科学会専門医教育施設の認定を受けることとなった。その後、1993年度には星野十医師が2人目の常勤医として赴任され、その後も医師の転勤を繰り返しながら常勤医師2人体制が続いていた。しかしながら2007年度をもって常勤体制は終了し、2008年9月末日で鳥取大学からの派遣による非常勤体制も終了した。その後、2008年10月からは鳥根大学泌尿器科学教室からの派遣による非常勤体制へ移行し、2015年度より平岡毅郎医師が8年ぶりに常勤医師として赴任、2017年12月に平岡医師の転勤に伴い井上圭太が赴任し現在に至っている。

診療の概要

泌尿器科外来で扱う疾患の大部分は前立腺肥大症、過活動膀胱、神経因性膀胱などの下部尿路疾患である。さらに悪性疾患では膀胱癌・尿管癌などの尿路上皮癌、前立腺癌、腎癌を主に扱っている。当科で行なっている手術は、膀胱癌に対するtransurethral resection of the bladder tumor (TURBT) や尿路結石に対するtransurethral ureterolithotomy (以下、TUL)、前立腺肥大に対するホルミウムヤグレーザーを用いたレーザー核出術 (holmium laser enucleation of the prostate、以下、

HoLEP) などの経尿道的手術を中心に、そのほか慢性腎不全に対する内シャント造設術や経皮的血管形成術などがある。

男性における下部尿路疾患は多くが前立腺肥大症であり、多くは $\alpha 1$ 遮断薬を中心に5 α 還元酵素阻害薬、phosphodiesterase (PDE) 5 阻害薬などを用いた内服加療で対応している。近年では5 α 還元酵素阻害薬の登場により手術回避が可能となる例も増えているが、効果不十分な例に対しては経尿道的手術による対応を行なっている。当科ではHoLEPを導入し、従来行われているtransurethral resection of the prostate (TURP) よりも低侵襲かつ確実な前立腺肥大治療が行えるようになっており、県内でも行なっている施設が少ないことから雲南圏域以外からも患者が集まる状態となっている。そのほか神経因性膀胱では尿道留置カテーテルの使用に加え、自己導尿法を積極的に行い患者の排尿障害の対応を行なっている。

悪性疾患の治療については、膀胱癌や腎盂・尿管癌などの尿路上皮癌、腎癌、前立腺癌などに対して早期症例については手術、進行症例については抗がん剤や分子標的薬で治療を行なっている。前立腺癌の腫瘍マーカーであるprostate-specific antigen (PSA) は広く認知される状況となっており、健康診断などの加えられるようになってから初期の前立腺癌が多く検出されるようになってきている。一方で、一般的に進行速度が緩やかであるとされる前立腺癌に対して過剰な検査と治療が行われているのではないかと懸念の声も聞かれるが、当科では患者に十分な説明を行なった上

で精査を行うか否かを決定することで対応としている。前立腺癌患者については手術や放射線治療が必要な場合は他院へ紹介としているが、進行癌や再発例、去勢抵抗性となったものに対するホルモン治療・抗がん剤治療を行なっている。

維持透析

当院透析室では2018年8月よりオンライン血液濾過透析（hemodialysis-filtration、HDF）を導入し、より良い透析の提供が可能となった。現在およそ22人の維持透析患者がおり、それ以外でも院内で発生した急性腎不全に対する患者に対して対応している。昨今の生活習慣病予防対策や腎不全対策により国内では年齢調整後の新規透析導入率の減少が得られているが、透析患者そのものの減少には至っておらず、透析患者は増加を続けている状態となっている。そのため、今後増加すると思われる患者に対して対応できる体制を整える必要があると考える。

今後の展望

現在は週1回程度島根大学からの手術応援の医師派遣があるものの、基本的に1人体制であるため、現在の腎尿管悪性腫瘍・副腎腫瘍に対するスタンダード手術である体腔鏡下手術については導入が行えていない状況である。また、上部尿路結石に対してはTULを中心に行っているが、外来でも施行可能な体外衝撃波結石破碎術のニーズも高く、これらについて今後導入にむけて努力したいと考えている。

泌尿器科は開設されてからは30年が経過しているものの、この20年の間に常勤医不在の期間が存在するなど大きな変化を経た。また、現在1人体制であり日頃の診療については他科医師の皆様にも多大な御協力をいただいで成り立っている状況である。しかしながら、今後も地域の皆さんに対して全国レベルの泌尿器科医療が提供できるように努力していく考えである。

Present status and future design of urology of Unnan City Hospital.

Keita Inoue

Department of urology, Unnan City Hospital

Correspondence: Keita Inoue, MD, Japan, Japan, Department of urology, Unnan City Hospital [96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN]

Telephone: 0854-47-7500 / Fax: 0854-47-7501

E-mail: hospital-soumu@city.unnan.shimane.jp